

○白いチョウ



- ヤマトシジミ (シジミチョウ科)
- ・4~12月
- ・大きさ：11~14mm
- ・食草：カタバミ

もっともよく見られるチョウで、オスのはねの表はきれいな青色。



- ルリシジミ (シジミチョウ科)
- ・3~11月
- ・大きさ：14~17mm
- ・食草：マメ科

オスのはねの表はきれいな青色。フジやクズなどの花にたまごをうむ。



- ツバメシジミ (シジミチョウ科)
- ・4~10月
- ・大きさ：11~14mm
- ・食草：マメ科

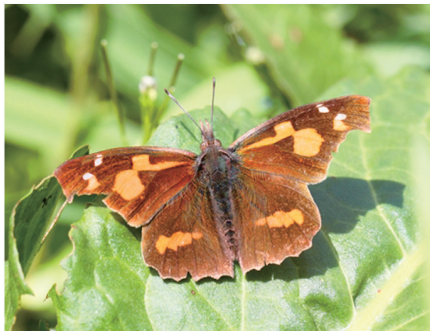
後ばねのオレンジ色のもようと小さな突起（とっき）がとくちょう。



- ウラギンシジミ (シジミチョウ科)
- ・4~12月
- ・大きさ：20~22mm
- ・食草：フジ、クズ

はねの表はオスが茶色地にオレンジ色で、メスが茶色地に白色。

●オレンジ色のチョウ



- テングチョウ (タテハチョウ科)
- ・3~6月
- ・大きさ：~mm
- ・食草：エノキ

せい虫で冬をこす。鼻先がテングのようにとがっている。



- キタテハ (タテハチョウ科)
- ・3~12月
- ・大きさ：22~29mm
- ・食草：カナムグラ

せい虫で冬をこす。冬のあたたかい日には見られることがある。



- ツマグロヒョウモン (タテハチョウ科)
- ・4~12月
- ・大きさ：30~40mm
- ・食草：スミレ科

花だんでも見られ、よう虫はパンジーなども食べる。



- ベニシジミ (シジミチョウ科)
- ・6~9月
- ・大きさ：15~18mm
- ・食草：スイバ

野はらをとびまわる、きれいなオレンジ色の小さなチョウ。

* 大きさは前ばねつけ根からはね先までの長さ。食草はよう虫の食べる草。

●茶色のチョウ



●ヒメウラナミジャノメ

- ・4～9月 (タテハチョウ科)
 - ・大きさ：16～20mm
 - ・食草：イネ科
- たくさんならんだ目玉もようがとくちょう。ひらひらととぶ。



●サトキマダラヒカゲ

- ・4～9月 (タテハチョウ科)
 - ・大きさ：30～38mm
 - ・食草：アズマネザサなどイネ科
- 林の中やそのまわりで見られ、暗い所をこのみ樹液(じゅえき)に集まる。



●ヒメジャノメ (タテハチョウ科)

- ・5～9月
 - ・大きさ：20～26mm
 - ・食草：イネ科、カヤツリグサ科
- 草地や林のまわりで見られ、樹液(じゅえき)に集まる。



●ヒカゲチョウ (タテハチョウ科)

- ・6～9月
 - ・大きさ：26～34mm
 - ・食草：アズマネザサなどイネ科
- 林の中やそのまわりで見られ、樹液(じゅえき)に集まる。



●イチモンジセセリ (セセリチョウ科)

- ・5～10月
 - ・大きさ：16～21mm
 - ・食草：イネ科
- 秋になると多く見られる。すごいスピードで花から花へとぶ。



●ムラサキシジミ (シジミチョウ科)

- ・4～11月
 - ・大きさ：15～20mm
 - ・食草：アラカシ
- せい虫で冬をこす。冬のあたたかい日には見られることがある。



●ウラナミシジミ (シジミチョウ科)

- ・7～10月
 - ・大きさ：16～18mm
 - ・食草：マメ科
- はねのうらに波のようなもようがある。8月ごろから多く見られる。

北へ旅するチョウのふしぎ

ウラナミシジミは、北へ移動しながら卵を産み、その子供たちがまた旅を続けます。夏の終わりには北海道でも見られますが、関東(かんとう)の海ぞいより北へ行ったものは寒い冬をこせずに死んでしまいます。それなのに次の年、また北へ向かって旅をします。

どうしてなのでしょう？
すむ場所を広げるためや、異常気象(いじょうきしょう)などの時に、生きのこる可能性(かのうせい)を高めるからかもしれませんね。